

○議長（上米良 玲君） 7番、児玉義和君の質問を許します。

○議員（7番 児玉 義和君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 7番、児玉義和君。

○議員（7番 児玉 義和君） それでは、さきに通告をいたしました西米良村観光協会の単独組織としての設立について、村長にお伺いをいたします。

先に開催されました西米良村観光協会の総会に提出されました事業報告書によりますと、本村の観光行政について多種多様にわたり御苦勞をいただいております。そして、その結果は村内をはじめ、県内外の西米良ファンの皆様に感動、癒し、喜びを与え、更なるアピールの発信素材として定着しているものと確信したところであります。

ただ、この観光協会の主な業務であります花火大会、ふるさと村民制度、食のイベント、スカイトレイル、今年度から始まるにしめら四季まつり事業等につきましては、むら創生課の活動の中に組み込まれ、それぞれの事業を限られた人数の職員が掛け持ちで遂行している状況であります。

どの事業も本村の観光行政にとっては大変重要な事業であります、全て相手ありきの事業であり、それぞれ別会計によりその運営をなしており、煩わしさも発生しております。特に花火大会につきましては、村の一大イベントでもあり、多額の予算と多くの人々のもと開催されており、その対応も半端なものではないことも承知しております。

そこで、この観光行政をよりスムーズで能率的に取り組める体制づくりとして、西米良村観光協会の単独組織の設立を願うものであります。今後もこの種の事業は継続されると思いますし、場合によってはより大きな規模のイベントになる可能性もあります。受入れ体制がしっかりできれば、関係人口の増加にもおのずと繋がってくるものではないかと考えるところであります。

当然、人的、場所的な問題が発生することは十分承知している上での質問であります。人的問題につきましては、担当課との連携を密にすることは当然ですが、例えば地域おこし協力隊員の方を中心とした構成とし、外から見た西米良村のよさを掘り起こしてもらおうなど、新たな感覚で取り組んでみてはどうかと思います。

以前にもこのような問題が出されたことがあったと聞いておりますけれども、その

結果は何らかの理由で採択されなかったようですが、このような考え方の意見があったということは、再度検討をしてみる価値はあるのではないかと思います、村長のお考えをお聞かせください。

○村長（黒木 竜二君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 村長。

○村長（黒木 竜二君） 7番、児玉義和議員から質問のありました西米良村観光協会を独立組織として設立することについてお答えをさせていただきます。

本村における観光振興につきましては、人口減少や高齢化が進む中、地域の持続可能性を確保し、地域経済を活性化させるために極めて重要な考えだと思っております。また、自分たちの取組や文化が観光資源として注目されることで、村民の誇りや村への愛着が高まることもつながると感じております。このことから、村の総合戦略におきましても、観光振興への取組を活性化させることを明記しております。

観光振興は、村が今後も豊かに存続していくための重要な戦略であることから、本年度におきましては国の補助事業も活用し、「かりこぼ一ずの宿」整備を行うとともに、そういった施設を拠点に観光客を増やしていくために、西米良四季まつりを開催、そして村にお越しになる観光客を関係人口につなげていく、1,000人を集める、1,000人が笑う村の関係人口1,000人創出事業についても取組をはじめ、新たな形で観光振興を歩み始めたところであります。

議員の御質問のように本村の職員が観光協会を兼務することは業務上の負担もありますが、民間事業者の視点による運営が行えないことも、問題としてあると考えております。しかしながら新たな組織を設けるということは、それだけの人件費が必要となります。観光協会を外部に出すとなれば、その人件費分の収益を出せるような事業もセットであるべきだと考えております。

今年度は長期総合計画の見直し及び総合戦略の策定を行う年となっております。これらの計画は、これからの西米良村を持続可能で幸福度の高いものにしていくために、極めて重要なものになります。専門家の力も借りながら、先ほど議員もおっしゃられたとおりでございますけれども、庁内での十分な検討を行い、議員の皆様や村民のお声も伺いながら策定してまいります、その中においても観光協会の今後の在り方につきましては、しっかりと検討してまいります。

例えば現在村にある組織の運営体制の見直しや強化をすることで、観光協会の業務を担わせていくことも考えられますし、新たに外部より公募する方法もあると思います。様々な角度から検討した結果、地域活性化起業人等の制度を活用しながら、民間視点を取り入れて、現在のまま役場職員が継続する方法が1番よいと判断する可能性もあると思います。

今後も本当の観光振興、持続可能な村づくりのために最適と思われる体制づくりに努めることを申し上げまして7番、児玉義和議員の質問に対する答弁とさせていただきます。

○議員（7番 児玉 義和君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 7番、児玉義和君。

○議員（7番 児玉 義和君） ありがとうございます。

最終的には、村の職員がそのまま継続してやるというような声があったことに対して非常にがっかりしたというか、また一緒かというような気もしたわけですが、県内外でもですね、恐らく観光協会という組織は外部団体といいますか、独立している組織が多分にあると思いますので、もちろん冒頭言いましたように、人的なこと、場所的なこと、それにまつわる資金的なこと十分分かるんですが、本当に今のままのですね1課が観光協会と一緒に担当しとっていいのか。何か一皮むけるような対策というのはやっぱり考えていくべきじゃないかなと思います。

ですから、観光協会、むら創生課だけの負担みたいな形になっておりますけども、すまいる課も新たにできております。そこ辺との兼ね合いもですね、考えていただいて、やはり観光協会というのは、もう思い切ってするときには、切り離してやるのも1つの改革じゃないかと思います。

先ほどの答弁で村長の御意向というのも分かりましたし、この観光協会の存在というのも必要性というのも十分分かっておられるようでございますので、これで打ち切りますけれども、その辺のところは今後も金がないからできないとかじゃなくて、何かの切り口を見いだすためにもそういった大きな視点でやっていただけるのがいいんじゃないかなと思いますので、希望を述べまして質問を終わります。

○村長（黒木 竜二君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 村長。

○村長（黒木 竜二君） 西米良村はですね、やっぱり前の村長がやっぱ観光人口を図りながらこういうたくさんの方の施設をつくってきて、そして非常に村外から来られたお客様が非常に過ごしやすい環境が今できております。イベントにつきましても長年培ってきたイベントをもちろん花火大会もそうでありますけれども、新たなイベント等も含めながら西米良の魅力をしっかりとブラッシュアップしながらやっていく今形態ができてるっていうのは、先ほど義和議員が言われた、ただ創生課だけで観光事業をやってるということの私は認識ではございません。

なぜかといいますと、しっかり全職員がですね、花火大会を成功させようという指揮のもとに行ってるイベント、もちろん関係職員、関係の村民の方もいらっしゃるんですけども、村民全員がやっぱりしっかり花火大会に来てもらっておもてなしをするという、やっぱりそういう士気は高めないといけないと思います。リスクとしてそのお金云々とかじゃなくてですね、リスクとしてやっぱり外部にしたときに良いパターンもあれば悪いパターンも多分あると思うんですけども悪いリスクといいますと、業務を委託したことによって先ほどの役場の職員がまとまって受入れをするそういう気持ちがなくなってしまうっていうことも無きにしも非ずで、外部だけでもうやろうとするという感覚も、もしかしたら芽生えてくる、そこをどうやって今度は運営していくかということにもなりかねないところがあるのかなと思うところでございます。そこもしっかりやっぱり外部等外部の人材は今から先必要になってくると思いますので、その外部の人材も含めて、何が1番いいことなのかということも検討の材料とさせてもらうということでございます。まるっきりその外部にやらないというわけではございませんのでそういう可能性もあるということで、今の段階からしていきますと、コロナが明けてそしてまたしっかりと関係人口そして交流人口を創出する体制を西米良村民全員が受入れていくという体制を今やろうとしているところでございますので、そこも含めながらですね、検討させていただければと思います。

○議員（7番 児玉 義和君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 7番、児玉義和君。

○議員（7番 児玉 義和君） ありがとうございます。

いずれにせよですね、西米良村をいかにしたらよくするかということが問題で、やはり新たな改革といいますか、そういったものも必要ではないかということでの質問

でございました。

近隣の市町村でもそういった団体といますか、あるわけですからその辺のところもいろいろ連絡をしていただくなりですね、いろんな情報をとっていただいて、西米良も他所に負けないような、今まで以上の観光行政が発達するように祈念して質問を終わります。